

最終宣言

我等は武運拙く遂に惨敗した。四旬に亘る力戦奮闘に我等の力は折れ矢は竭きた。茲に怨を呑んで兵を收める。今我等が胸底に痛ましく烙印されたものは資本家の暴虐と官憲の壓制である。我等の血脈に男兒の熱血が漲る以上どうして此の恨が忘れられやう。我等は益々社會改造の戦志を強めた。我等は今後更に團結の威力を養ふ必要を痛感する。眞理は最後に於て必ず勝つ。我等は悲壯なる赤穂義士の覺悟を以て他日の勝利を期するのである。天は昭々として誠を照らす、我等は何をか怖れ、何をか憚らん

又我等の忘るべからざるは憎むべき眞切者である。彼等の中には生活の脅威に止むなく友を買つた者である。けれども同時に些細な私利私慾に目が眩んで多数同輩の大決戦に致命傷を與へた者も少くはない。お、此の背徳漢よ、卑怯者よ。破廉恥漢よ、汝等の不義不徳は労働者の階級道徳上、正に嚴罰に處すべきものである。

我等は惨敗した。此の怨は及の如く全身に喰ひ込んで居る。悲憤の情胸に迫つて亦多く言ふ能はず。我等は茲に泣いて兵を收める

八月十一日

川崎三菱爭議團本部

同志上谷君は死んだ。前途春秋多き彼は死んで身の潔白を示さうとしたのだ。あゝ尊き死の勝利！これは労働運動者のみが持つ得る美しい情操である。

金のために主義を賣らなかつた彼の雄々しき態度は後の世の労働者に多大の刺激と感銘とを與へるであらう。十九歳の青年上谷君の死は決して無意義ではなかつた。

(遺書)

神戸五萬の罷工 労働者諸君へ

(死に面して) 上谷 清 逸

諸君よ。私は知らずに貰つた金の爲め主義を賣り、友を賣り、理想までも屈げなければならぬとされた。私の立場を悲觀して又今の場合をのがれる道も無く、私は死を選びます。指の負傷手當金だと思つたのが、私を買収する爲めの金であつたのです。其の金は全部使かつたのです。

返すにも返されないので。死に面して諸君に御願ひする事は、私の死に依つて、諸君は何等かの「ヒント」を得て益々結束を強くして、横暴なる資本家を倒すまで、戦はれん事を(中略)呉れ呉れも諸君に御願ひする次第であります。

(友愛會神戸聯合會樓上にて書す)

場所 神田美土代町 於 青年會館

時日 九月二十日午後六時正刻

神戸労働争援劔問題調査報告演說會

報告員 松谷與二郎

- 一 惨殺の責任者は誰ぞ 同 上村 進
- 一 封建時代? 立憲時代? 同 谷 健次郎
- 一 國權の癡痺を論ず 同 宮澤 武七
- 一 神戸美術俱樂部血染の一卷 同 山中 正直
- 一 此の證據を奈何 同 宮崎 龍介
- 一 民權と官權との問題 同 三輪 壽莊
- 一 労働争議と人權問題 同 山崎今朝彌
- 一 題未定 同 布施 辰治
- 一 労働争議と所謂高等警察 同

事實證言者

- 賀川 豊彦 柴田 富太郎
- 久留 弘三 行 政 長 藏
- 鈴木 文治 松岡 駒吉

主催 神戸労働争議調査辯護士有志團

入場料 金 參拾錢